

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置							
フリガナ	ガッコウホウジン メイジョウダイガク							
設置者	学校法人名城大学							
フリガナ	メイジョウダイガクダイガクイン							
大学の名称	名城大学院 (Meijo University Graduate Schools)							
大学本部の位置	愛知県名古屋市中区塩釜一丁目501番地							
大学の目的	本大学院は、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、もって文化の進展に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的	メカトロニクス工学専攻では、メカトロニクス分野における高度専門技術者の育成をベースとする。ここで育成する高度なメカトロニクス工学技術者は、技術者として自立した倫理観、社会適応性、および、世界的視野を有し、物事を客観的に論理的に議論できる能力を有することを重視する。またメカトロニクスシステムとその構成要素機器機能を理解でき、あわせてメカトロニクスシステム機能の俯瞰的モデリングとその実現性を評価でき、かつ実際に応用できる人材の養成を目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	理工学研究科 [Graduate school of Science and Technology]	年	人	年次人	人	修士 (工学)	平成29年4月 第1年次	愛知県名古屋市中区塩釜一丁目501番地
	メカトロニクス工学専攻 [Department of Mechatronics Engineering]	2	20	—	40			
	計		20	—	40			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	平成29年4月 研究科の専攻の設置予定 理工学研究科応用化学専攻 (M) (24) (平成28年4月届出予定) 平成29年4月 名称変更予定 理工学研究科機械システム工学専攻 (M) →機械工学専攻 (M) 理工学研究科建設システム工学専攻 (M) →社会基盤デザイン工学専攻 (M) 平成29年4月 入学定員変更予定 理工学研究科機械システム工学専攻 (M) [定員増] (4) 理工学研究科建設システム工学専攻 (M) [定員減] (△2) 理工学研究科環境創造学専攻 (M) [定員減] (△2) 経営学部経営学科 [定員増] (20) (平成28年3月認可申請) 経営学部国際経営学科 [定員増] (5) (平成28年3月認可申請) 経済学部経済学科 [定員増] (25) (平成28年3月認可申請) 理工学部数学科 [定員増] (5) (平成28年3月認可申請) 理工学部情報工学科 [定員増] (5) (平成28年3月認可申請) 理工学部電気電子工学科 [定員増] (20) (平成28年3月認可申請) 理工学部材料機能工学科 [定員増] (15) (平成28年3月認可申請) 理工学部応用化学科 [定員増] (10) (平成28年3月認可申請) 理工学部機械工学科 [定員増] (5) (平成28年3月認可申請) 理工学部交通機械工学科 [定員増] (15) (平成28年3月認可申請) 理工学部メカトロニクス工学専攻 [定員増] (5) (平成28年3月認可申請) 理工学部環境創造学専攻 [定員減] (△10) (平成28年3月認可申請) 理工学部建築学科 [定員増] (10) (平成28年3月認可申請) 農学部生物資源学科 [定員増] (10) (平成28年3月認可申請) 農学部応用生物化学科 [定員増] (10) (平成28年3月認可申請) 農学部生物環境科学科 [定員増] (10) (平成28年3月認可申請) 薬学部薬学科 [定員増] (15) (平成28年3月認可申請) 都市情報学部都市情報学科 [定員増] (20) (平成28年3月認可申請) 人間学部人間学科 [定員増] (20) (平成28年3月認可申請) 法務研究科 (廃止) 法務専攻 (△25) ※平成29年4月 学生募集停止							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	理工学研究科 メカトロニクス工学専攻	講義 25 科目	演習 16 科目	実験・実習 0 科目	計 41 科目	30 単位		

教	部	等	の	名	称	専任教員等						兼	任																																																													
						教授	准教授	講師	助教	計	助手			教員等																																																												
新	設	分	理	工	学	研	究	科	メ	カ	ト	ロ	ニ	ク	ス	工	学	専	攻	(修	士	課	程)	人	4	(4)	人	3	(3)	人	0	(0)	人	0	(0)	人	7	(7)	人	0	(0)	人	10	(10)																					
																																																						5	(5)	3	(3)	0	(0)	2	(2)	10	(10)	0	(0)	0	(0)
																																																						9	(9)	6	(6)	0	(0)	2	(2)	17	(17)	0	(0)	-	(-)
既	法	学	研	究	科	法	律	学	専	攻	(修	士	課	程)	人	21	(21)	人	8	(8)	人	0	(0)	人	0	(0)	人	29	(29)	人	0	(0)	人	10	(10)																														
																																													12	(12)	0	(0)	0	(0)	12	(12)	0	(0)	0	(0)												
																																													20	(20)	5	(5)	0	(0)	0	(0)	25	(25)	0	(0)	10	(10)									
既	經	営	学	研	究	科	經	営	学	専	攻	(修	士	課	程)	人	20	(20)	人	5	(5)	人	0	(0)	人	0	(0)	人	25	(25)	人	0	(0)	人	10	(10)																													
																																														16	(16)	0	(0)	0	(0)	16	(16)	0	(0)	0	(0)											
																																														17	(17)	8	(8)	0	(0)	0	(0)	25	(25)	0	(0)	1	(1)								
既	經	済	学	研	究	科	經	済	学	専	攻	(修	士	課	程)	人	17	(17)	人	8	(8)	人	0	(0)	人	0	(0)	人	25	(25)	人	0	(0)	人	1	(1)																													
																																														14	(14)	0	(0)	0	(0)	14	(14)	0	(0)	0	(0)											
																																														9	(9)	6	(6)	0	(0)	1	(1)	16	(16)	0	(0)	4	(4)								
既	理	工	学	研	究	科	数	学	専	攻	(博	士	前	期	課	程)	人	9	(9)	人	6	(6)	人	0	(0)	人	1	(1)	人	16	(16)	人	0	(0)	人	4	(4)																												
																																															8	(8)	0	(0)	0	(0)	8	(8)	0	(0)	0	(0)										
																																															11	(11)	7	(7)	0	(0)	0	(0)	18	(18)	0	(0)	0	(0)							
既	理	工	学	研	究	科	情	報	工	学	専	攻	(修	士	課	程)	人	11	(11)	人	7	(7)	人	0	(0)	人	0	(0)	人	18	(18)	人	0	(0)	人	0	(0)																												
																																															10	(10)	3	(3)	0	(0)	0	(0)	13	(13)	0	(0)	0	(0)							
																																															9	(9)	5	(5)	0	(0)	0	(0)	14	(14)	0	(0)	5	(5)							
既	理	工	学	研	究	科	機	械	工	学	専	攻	(博	士	前	期	課	程)	人	10	(10)	人	3	(3)	人	0	(0)	人	13	(13)	人	0	(0)	人	3	(3)																														
																																													9	(9)	5	(5)	0	(0)	0	(0)	14	(14)	0	(0)	5	(5)									
																																													8	(8)	8	(8)	0	(0)	0	(0)	16	(16)	0	(0)	3	(3)									
既	理	工	学	研	究	科	交	通	機	械	工	学	専	攻	(修	士	課	程)	人	6	(6)	人	7	(7)	人	0	(0)	人	13	(13)	人	0	(0)	人	3	(3)																														
																																													6	(6)	6	(6)	0	(0)	0	(0)	12	(12)	0	(0)	0	(0)									
																																													6	(6)	5	(5)	0	(0)	0	(0)	11	(11)	0	(0)	1	(1)									
既	理	工	学	研	究	科	環	境	創	造	学	専	攻	(修	士	課	程)	人	6	(6)	人	5	(5)	人	0	(0)	人	0	(0)	人	11	(11)	人	0	(0)	人	1	(1)																											
																																																5	(5)	9	(9)	0	(0)	0	(0)	14	(14)	0	(0)	0	(0)						
																																																34	(34)	8	(8)	0	(0)	0	(0)	42	(42)	0	(0)	0	(0)						
既	理	工	学	研	究	科	機	械	工	学	専	攻	(博	士	後	期	課	程)	人	18	(18)	人	14	(14)	人	0	(0)	人	0	(0)	人	32	(32)	人	0	(0)	人	0	(0)																										
																																																	17	(17)	6	(6)	0	(0)	0	(0)	23	(23)	0	(0)	0	(0)					
																																																	23	(23)	17	(17)	1	(1)	2	(2)	43	(43)	0	(0)	0	(0)					
既	農	学	研	究	科	農	学	専	攻	(修	士	課	程)	人	23	(23)	人	17	(17)	人	1	(1)	人	2	(2)	人	43	(43)	人	0	(0)	人	0	(0)																															
																																												23	(23)	0	(0)	0	(0)	23	(23)	0	(0)	0	(0)													
																																												25	(25)	16	(16)	0	(0)	0	(0)	41	(41)	0	(0)	5	(5)										
既	都	市	情	報	学	研	究	科	都	市	情	報	学	専	攻	(修	士	課	程)	人	22	(22)	人	4	(4)	人	0	(0)	人	26	(26)	人	0	(0)	人	1	(1)																													
																																														22	(22)	0	(0)	0	(0)	22	(22)	0	(0)	0	(0)											
																																														10	(10)	4	(4)	0	(0)	0	(0)	14	(14)	0	(0)	2	(2)								
既	人	間	学	研	究	科	人	間	学	専	攻	(修	士	課	程)	人	9	(9)	人	2	(2)	人	0	(0)	人	2	(2)	人	13	(13)	人	0	(0)	人	4	(4)																													
																																														9	(9)	2	(2)	0	(0)	10	(10)	0	(0)	0	(0)											
																																														12	(12)	3	(3)	0	(0)	0	(0)	15	(15)	0	(0)	23	(23)								
既	法	務	研	究	科	専	門	職	学	位	課	程)	人	12	(12)	人	3	(3)	人	0	(0)	人	0	(0)	人	15	(15)	人	0	(0)	人	23	(23)																																	
																																										229	(229)	123	(123)	1	(1)	5	(5)	358	(358)	0	(0)	-	(-)												
																																										238	(238)	129	(129)	1	(1)	7	(7)	375	(375)	0	(0)	-	(-)												
要	概	分	合	計)	人	238	(238)	人	129	(129)	人	1	(1)	人	7	(7)	人	375	(375)	人	0	(0)	人	-	(-)																																									

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		216 (216)	140 (140)	356 (356)					
	技 術 職 員		7 (7)	3 (3)	10 (10)					
	図 書 館 専 門 職 員		5 (5)	2 (2)	7 (7)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計		228 (228)	145 (145)	373 (373)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	校地：八事キャンパス17,553㎡・可児キャンパス48,782㎡・ナゴヤドーム前キャンパス17,937.07㎡を含む。 (借用地)貸与者：蒲郡市 借用期間：平成16年6月1日から25年10ヶ月間(200㎡)				
	校 舎 敷 地	222,617.33㎡	0.00㎡	0.00㎡	222,617.33㎡					
	運 動 場 用 地	174,962.29㎡	0.00㎡	0.00㎡	174,962.29㎡					
	小 計	397,579.62㎡	0.00㎡	0.00㎡	397,579.62㎡					
	そ の 他	157,916.92㎡	0.00㎡	0.00㎡	157,916.92㎡					
合 計	555,496.54㎡	0.00㎡	0.00㎡	555,496.54㎡						
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	校舎：八事キャンパス38,644.80㎡・可児キャンパス12,810㎡を含む。					
	238,413.83㎡ (238,413.83㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	238,413.83㎡ (238,413.83㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	187室	187室	230室	29室 (補助職員11人)	5室 (補助職員5人)					
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数						
	理工学研究科メカトロニクス工学専攻			7 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部全体 大学全体での共用分 図書 〔362,297〕 学術雑誌 〔338,244〕 電子ジャーナル 〔23,653〕 視聴覚資料 〔16,342〕 機械・器具 〔793〕		
	理工学研究科 メカトロニクス工学専攻	362,297〔72,417〕 (362,297〔72,417〕)	13,498〔10,914〕 (13,498〔10,914〕)	13,360〔10,852〕 (13,360〔10,852〕)	16,342 (16,342)	5,011 (4,963)	82 (81)			
	計	362,297〔72,417〕 (362,297〔72,417〕)	13,498〔10,914〕 (13,498〔10,914〕)	13,360〔10,852〕 (13,360〔10,852〕)	16,342 (16,342)	5,011 (4,963)	82 (81)			
図 書 館	面積		閲覧席座数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
	16947.65㎡		1,526 席		1,531,877 冊					
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
	10128.26㎡		グ ラ ウ ン ド テ ニ ス コ ー ト							
経 費 の 見 積 り 及 び 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科全体
		教員1人当り研究費等		478千円	478千円	—	—	—	—	
		共同研究費等		20,448千円	20,448千円	—	—	—	—	
		図書購入費	32,054千円	32,054千円	32,054千円	—	—	—	—	
	設備購入費	370,680千円	370,680千円	370,680千円	—	—	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	990千円	860千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入等							

大学等の名称	名城大学							所在地			
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率			開設年度	
法学部	法学部	年	人	年次人	人		1.07				
	法学科	4	400	—	1,480	学士(法学)	1.06	平成11年度			平成28年度入学定員増(40人)
	応用実務法学科	4	—	—	—	学士(法学)	—	平成11年度			平成28年4月より学生募集停止
経営学部	経営学部						1.13				
	経営学科	4	195	—	780	学士(経営学)	1.11	平成12年度			
	国際経営学科	4	90	—	360	学士(経営学)	1.17	平成12年度			
経済学部	経済学部						1.13				
	経済学科	4	185	—	740	学士(経済学)	1.12	平成12年度			
	産業社会学科	4	100	—	400	学士(経済学)	1.14	平成12年度			
理工学部	理工学部						1.08				
	数学科	4	85	—	340	学士(理学)	1.06	平成12年度	愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地		
	情報工学科	4	145	—	580	学士(工学)	1.06	平成16年度			
	電気電子工学科	4	130	—	520	学士(工学)	1.08	平成12年度			
	材料機能工学科	4	65	—	260	学士(工学)	1.10	平成12年度			
	応用化学科	4	60	—	240	学士(工学)	0.95	平成25年度			
	機械工学科	4	120	—	480	学士(工学)	1.10	平成12年度			
	交通機械工学科	4	110	—	440	学士(工学)	1.09	平成12年度			
	メカトロニクス工学科	4	75	—	300	学士(工学)	1.13	平成25年度			
	社会基盤デザイン工学科	4	90	—	360	学士(工学)	1.18	平成12年度			
	環境創造学科	4	90	—	360	学士(工学)	1.03	平成12年度			
	建築学科	4	135	—	540	学士(工学)	1.14	平成12年度			
農学部	農学部						1.10				
	生物資源学科	4	100	—	400	学士(農学)	1.10	平成11年度			
	応用生物化学科	4	100	—	400	学士(農学)	1.15	平成11年度			
	生物環境科学科	4	100	—	400	学士(農学)	1.05	平成17年度			
薬学部	薬学部						1.08				
	薬学科(6年制)	6	250	—	1,500	学士(薬学)	1.08	平成18年度	愛知県名古屋市天白区八事山150番地		
都市情報学部	都市情報学部						1.10				
	都市情報学科	4	200	—	800	学士(都市情報学)	1.10	平成7年度	岐阜県可児市虹ヶ丘四丁目3番の3	平成29年4月1日からナゴヤドーム前キャンパスに移転予定(愛知県名古屋市東区矢田南四丁目102番9)	
人間学部	人間学部						1.12				
	人間学科	4	200	—	800	学士(人間学)	1.12	平成15年度	愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地	平成29年4月1日からナゴヤドーム前キャンパスに移転予定(愛知県名古屋市東区矢田南四丁目102番9)	
外国語学部	外国語学部						1.06				
	国際英語学科	4	130	—	130	学士(外国語学)	1.06	平成28年度	愛知県名古屋市東区矢田南四丁目102番9		

大学の名称	名城大学大学院							所在地
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
大学院法学研究科 法律学専攻	年	人	年次人	人				
修士課程	2	15	—	30	修士(法学)	0.16	昭和49年	愛知県名古屋市長白区塩釜口一丁目501番地
博士後期課程	3	8	—	24	博士(法学)	0.04	昭和44年	
大学院経営学研究科 経営学専攻								
修士課程	2	20	—	40	修士(経営学)	0.95	平成13年	
博士後期課程	3	3	—	9	博士(経営学)	0.22	平成15年	
大学院経済学研究科 経済学専攻								
修士課程	2	10	—	20	修士(経済学)	0.55	平成13年	
博士後期課程	3	3	—	9	博士(経済学)	0.11	平成14年	
大学院理工学研究科 数学専攻								
博士前期課程	2	8	—	16	修士(理学)	0.56	平成14年	
博士後期課程	3	2	—	6	博士(理学)	0.00	平成7年度	
情報工学専攻								
修士課程	2	30	—	60	修士(工学)	0.73	平成14年	
電気電子工学専攻								
博士前期課程	2	20	—	40	修士(工学)	1.77	平成14年	
材料機能工学専攻								
修士課程	2	30	—	60	修士(工学)	1.23	平成14年	
機械システム工学専攻								
修士課程	2	20	—	40	修士(工学)	1.82	平成14年	
交通機械工学専攻								
修士課程	2	16	—	32	修士(工学)	1.31	平成14年	
建設システム工学専攻								
修士課程	2	20	—	40	修士(工学)	0.60	平成14年	
環境創造学専攻								
修士課程	2	10	—	20	修士(工学)	0.40	平成14年	
建築学専攻								
修士課程	2	16	—	32	修士(工学)	0.68	平成14年	
電気電子・情報・材料工学専攻								
博士後期課程	3	10	—	30	博士(工学)	0.40	平成5年度	
機械工学専攻								
博士後期課程	3	5	—	15	博士(工学)	0.40	平成4年度	
社会環境デザイン工学専攻								
博士後期課程	3	5	—	15	博士(工学)	0.20	平成4年度	
大学院農学研究科								

既設大学の状況

既設 大学等 の 状 況	農学専攻											愛知県名古屋市天 白区塩釜口一丁目 501番地		
	修士課程	2	20	—	40	修士 (農学)	0.97	昭 和 48年 和 51年						
	博士後期課程	3	5	—	15	博士 (農学)	0.06							
	大学院薬学研究科													
	薬学専攻													
	博士課程(4年制)	4	4	—	16	博士 (薬学)	1.75	平 成 24年					愛知県名古屋市天 白区八事山150番 地	
	大学院都市情報学研究科													
	都市情報学専攻													
	修士課程	2	8	—	16	修士 (都市情報学)	0.93	平 成 11年 平 成 12年					岐阜県可児市虹ヶ 丘四丁目3番の3	平成29年4月1日からナ ゴヤドーム前キャン パスに移転予定(愛知県 名古屋市東区矢田南四 丁目102番9)
	博士後期課程	3	4	—	12	博士 (都市情報学)	0.16							
大学院人間学研究科														
人間学専攻														
修士課程	2	8	—	16	修士 (人間学)	0.12	平 成 22年						平成29年4月1日からナ ゴヤドーム前キャン パスに移転予定(愛知県 名古屋市東区矢田南四 丁目102番9)	
大学院総合学術研究科														
総合学術専攻														
博士前期課程	2	8	—	16	修士 (学術)	0.12	平 成 14年 平 成 14年							
博士後期課程	3	4	—	12	博士 (学術)	0.41								
大学院大学・学校づくり研究科														
大学・学校づくり専攻														
修士課程	2	—	—	—	修士 (教育経営)	—	平 成 18年						平成27年4月より学生 募集停止	
大学院法務研究科														
法務専攻														
専門職学位課程	3	25	—	90	法務博士 (専門職)	0.25	平 成 16年						平成27年度入学定員減 (△15人)	
附属施設の概要	該当なし													

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人名城大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
名城大学				名城大学				
法学部				法学部				
法学科	400	—	1,600	法学科	400	—	1,600	
経営学部				経営学部				
経営学科	195	—	780	経営学科	<u>215</u>	—	<u>860</u>	定員変更 (20)
国際経営学科	90	—	360	国際経営学科	<u>95</u>	—	<u>380</u>	定員変更 (5)
経済学部				経済学部				
経済学科	185	—	740	経済学科	<u>210</u>	—	<u>840</u>	定員変更 (25)
産業社会学科	100	—	400	産業社会学科	100	—	400	
理工学部				理工学部				
数学科	85	—	340	数学科	<u>90</u>	—	<u>360</u>	定員変更 (5)
情報工学科	145	—	580	情報工学科	<u>150</u>	—	<u>600</u>	定員変更 (5)
電気電子工学科	130	—	520	電気電子工学科	<u>150</u>	—	<u>600</u>	定員変更 (20)
材料機能工学科	65	—	260	材料機能工学科	<u>80</u>	—	<u>320</u>	定員変更 (15)
応用化学科	60	—	240	応用化学科	<u>70</u>	—	<u>280</u>	定員変更 (10)
機械工学科	120	—	480	機械工学科	<u>125</u>	—	<u>500</u>	定員変更 (5)
交通機械工学科	110	—	440	交通機械工学科	<u>125</u>	—	<u>500</u>	定員変更 (15)
メカトロニクス工学科	75	—	300	メカトロニクス工学科	<u>80</u>	—	<u>320</u>	定員変更 (5)
社会基盤デザイン工学科	90	—	360	社会基盤デザイン工学科	90	—	360	
環境創造学科	90	—	360	環境創造学科	<u>80</u>	—	<u>320</u>	定員変更 (△10)
建築学科	135	—	540	建築学科	<u>145</u>	—	<u>580</u>	定員変更 (10)
農学部				農学部				
生物資源学科	100	—	400	生物資源学科	<u>110</u>	—	<u>440</u>	定員変更 (10)
応用生物化学科	100	—	400	応用生物化学科	<u>110</u>	—	<u>440</u>	定員変更 (10)
生物環境科学科	100	—	400	生物環境科学科	<u>110</u>	—	<u>440</u>	定員変更 (10)
薬学部				薬学部				
薬学科 (6年制)	250	—	1,500	薬学科 (6年制)	<u>265</u>	—	<u>1,590</u>	定員変更 (15)
都市情報学部				都市情報学部				
都市情報学科	200	—	800	都市情報学科	<u>220</u>	—	<u>880</u>	定員変更 (20)
人間学部				人間学部				
人間学科	200	—	800	人間学科	<u>220</u>	—	<u>880</u>	定員変更 (20)
外国語学部				外国語学部				
国際英語学科	130	—	520	国際英語学科	130	—	520	
計	3,155	—	13,120	計	<u>3,370</u>	—	<u>14,010</u>	

学校法人名城大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
名城大学大学院				名城大学大学院				
法学研究科				法学研究科				
法律学専攻(M)	15	—	30	法律学専攻(M)	15	—	30	
法律学専攻(D)	8	—	24	法律学専攻(D)	8	—	24	
経営学研究科				経営学研究科				
経営学専攻(M)	20	—	40	経営学専攻(M)	20	—	40	
経営学専攻(D)	3	—	9	経営学専攻(D)	3	—	9	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻(M)	10	—	20	経済学専攻(M)	10	—	20	
経済学専攻(D)	3	—	9	経済学専攻(D)	3	—	9	
理工学研究科				理工学研究科				
数学専攻(M)	8	—	16	数学専攻(M)	8	—	16	
数学専攻(D)	2	—	6	数学専攻(D)	2	—	6	
情報工学専攻(M)	30	—	60	情報工学専攻(M)	30	—	60	
電気電子工学専攻(M)	20	—	40	電気電子工学専攻(M)	20	—	40	
材料機能工学専攻(M)	30	—	60	材料機能工学専攻(M)	30	—	60	
				応用化学専攻(M)	24	—		48 専攻の設置(届出)
機械システム工学専攻(M)	20	—	40	機械工学専攻(M)	24	—		48 名称変更
								及び定員変更(4)
交通機械工学専攻(M)	16	—	32	交通機械工学専攻(M)	16	—	32	
				メカトロニクス工学専攻(M)	20	—		40 専攻の設置(届出)
建設システム工学専攻(M)	20	—	40	社会基盤デザイン工学専攻	18	—		36 名称変更
				(M)				及び定員変更(Δ2)
環境創造学専攻(M)	10	—	20	環境創造学専攻(M)	8	—		16 定員変更(Δ2)
建築学専攻(M)	16	—	32	建築学専攻(M)	16	—	32	
電気電子・情報・材料工学専攻(D)	10	—	30	電気電子・情報・材料工学専攻(D)	10	—	30	
機械工学専攻(D)	5	—	15	機械工学専攻(D)	5	—	15	
社会環境デザイン工学専攻(D)	5	—	15	社会環境デザイン工学専攻(D)	5	—	15	
農学研究科				農学研究科				
農学専攻(M)	20	—	40	農学専攻(M)	20	—	40	
農学専攻(D)	5	—	15	農学専攻(D)	5	—	15	
薬学研究科				薬学研究科				
薬学専攻(D)(4年制)	4	—	16	薬学専攻(D)(4年制)	4	—	16	
都市情報学研究科				都市情報学研究科				
都市情報学専攻(M)	8	—	16	都市情報学専攻(M)	8	—	16	
都市情報学専攻(D)	4	—	12	都市情報学専攻(D)	4	—	12	
人間学研究科				人間学研究科				
人間学専攻(M)	8	—	16	人間学専攻(M)	8	—	16	
総合学術研究科				総合学術研究科				
総合学術専攻(M)	8	—	16	総合学術専攻(M)	8	—	16	
総合学術専攻(D)	4	—	12	総合学術専攻(D)	4	—	12	
法務研究科				法務研究科				
法務専攻(P)	25	—	75	法務専攻(P)	0	—		0 平成29年4月学生募集停止
計	337	—	756	計	356	—	769	

教育課程等の概要														
(理工学研究科メカトロニクス工学専攻修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
システムデバイス学	応用電磁気学特論	1前		2		○			1					
	電子デバイス学特論	1後		2		○			1					
	計測システム学特論	1前		2		○				1				
	制御システム学特論	1後		2		○				1				
	システムデバイス学特別演習・実験ⅠA	1前		2			○		1	1				※実験
	システムデバイス学特別演習・実験ⅠB	1後		2			○		1	1				※実験
	システムデバイス学特別演習・実験ⅡA	2前		2			○		1	1				※実験
	システムデバイス学特別演習・実験ⅡB	2後		2			○		1	1				※実験
	先端信号処理学特論	1後		2		○			1					
小計(9科目)	—	0	18	0	—	—	—	2	1	0	0	0	—	
センシングシステム学	センシングシステム特論	1前		2		○			1					
	知能センサ学特論	1後		2		○			1					
	ロボットシステムデザイン学特論	1前		2		○				1				
	知能ロボット学特論	1後		2		○				1				
	センシングシステム特別演習・実験ⅠA	1前		2			○		1	1				※実験
	センシングシステム特別演習・実験ⅠB	1後		2			○		1	1				※実験
	センシングシステム特別演習・実験ⅡA	2前		2			○		1	1				※実験
	センシングシステム特別演習・実験ⅡB	2後		2			○		1	1				※実験
	情報メカトロニクス学特論	1前		2		○								兼1 集中
小計(9科目)	—	0	18	0	—	—	—	1	1	0	0	0	兼1 —	
専修分野 機能システム構築学	知能システム制御工学特論	1前		2		○			1					
	制御工学特論	1後		2		○			1					
	機能システム構築学特別演習・実験ⅠA	1前		2			○		1					※実験
	機能システム構築学特別演習・実験ⅠB	1後		2			○		1					※実験
	機能システム構築学特別演習・実験ⅡA	2前		2			○		1					※実験
	機能システム構築学特別演習・実験ⅡB	2後		2			○		1					※実験
	移動システム学特論	1後		2		○				1				
	強度解析モデリング特論	1前		2		○								兼1
	機能システム学特論	1前		2		○								兼1 集中
小計(9科目)	—	0	18	0	—	—	—	1	1	0	0	0	兼2 —	
マルチスケールメカトロニクス	ナノ・マイクロシステム制御特論	1前		2		○			1					
	ナノ・マイクロ知能システム特論	1後		2		○			1					
	マイクロロボット学特論	1前		2		○				1				
	ナノ・マイクロ制御システム特論	1後		2		○				1				
	マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験ⅠA	1前		2			○		1	1				※実験
	マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験ⅠB	1後		2			○		1	1				※実験
	マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験ⅡA	2前		2			○		1	1				※実験
	マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験ⅡB	2後		2			○		1	1				※実験
	医療機械システム特論	1後		2		○								兼1
	バイオシステム特論	1前		2		○								兼1
小計(10科目)	—	0	20	0	—	—	—	1	1	0	0	0	兼2 —	
関連科目 共通科目	アドバンスド・インターンシップ	1後		2		○			1					集中
	科学技術英語	1前		2		○								兼5
	特別講義Ⅰ	1・2前		2		○				1				
	特別講義Ⅱ	1・2前		2		○				1				
	小計(4科目)	—	0	8	0	—	—	—	1	1	0	0	0	兼5 —
合計(41科目)		—	0	82	0	—	—	—	4	3	0	0	0	兼10 —
学位又は称号	修士(工学)		学位又は学科の分野				工学関係							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>[履修方法]</p> <p>(1) 学生は、2年以上在学し、次に定める方法により、30単位以上を修得しなければならない。</p> <p>(2) 授業科目の中から1専修分野（特論4単位、特別演習・実験ⅠA～ⅡBの合計8単位）を選定し、これを学生の専修科目とする。専修科目のほか、専修科目以外の授業科目（他専攻の授業科目・他研究科の授業科目を含む。）の中から18単位以上を選択履修しなければならない。</p> <p>(3) 専修科目を担当する教員を当該学生の指導教員とし、学生は、授業科目の選定、学位論文の作成その他研究一般について、その指導を受けるものとする。</p> <p>(4) 修士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。</p> <p>[修了要件]</p> <p>本大学院に2年以上在学し、修了に必要な単位数として、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、本大学院が行う修士論文の審査及び試験に合格しなければならない。</p>	1 学年の学期区分	2学期
	1 学期の授業期間	15週
	1 時限の授業時間	90分

教育課程等の概要														
(理工学研究科情報工学専攻修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
知能情報処理	人工知能特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	人工知能特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	知能システム特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	知能システム特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	言語情報処理特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	言語情報処理特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	知能情報処理特別演習	1・2通		4			○		3					
	知能情報処理特別実験	1・2通		4				○	3					
小計(8科目)	—	0	20	0	—	—	—	3	0	0	0	0	0	—
知的情報処理・認識	画像情報処理特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	画像情報処理特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	音声・音響情報処理特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	音声・音響情報処理特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	知的ヒューマンインタフェース特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	知的ヒューマンインタフェース特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	知的情報処理・認識特別演習	1・2通		4			○		2	1				
	知的情報処理・認識特別実験	1・2通		4				○	2	1				
小計(8科目)	—	0	20	0	—	—	—	2	1	0	0	0	0	—
計測システム	知的制御システム特論Ⅰ	1前		2		○			1	1				
	知的制御システム特論Ⅱ	1後		2		○			1	1				
	知的制御・計測システム特別演習	1・2通		4			○		1	1				
	知的制御・計測システム特別実験	1・2通		4				○	1	1				
小計(4科目)	—	0	12	0	—	—	—	1	1	0	0	0	0	—
情報通信	情報通信方式特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	情報通信方式特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	情報通信ネットワーク特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	情報通信ネットワーク特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	情報通信基礎論特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	情報通信基礎論特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	情報通信特別演習	1・2通		4			○		1	2		1		
	情報通信特別実験	1・2通		4				○	1	2		1		
小計(8科目)	—	0	20	0	—	—	—	1	2	0	1	0	0	—
情報メディア	コンピュータグラフィックス特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	コンピュータグラフィックス特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	バーチャルリアリティ特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	バーチャルリアリティ特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	感性工学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	感性工学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	情報メディア特別演習	1・2通		4			○		2	1				
	情報メディア特別実験	1・2通		4				○	2	1				
小計(8科目)	—	0	20	0	—	—	—	2	1	0	0	0	0	—
計算・数理工学	アルゴリズム特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	アルゴリズム特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	計算機工学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	計算機工学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	数理モデリング特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	数理モデリング特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	計算・数理工学特別演習	1・2通		4			○		2	1				
	計算・数理工学特別実験	1・2通		4				○	2	1				
小計(8科目)	—	0	20	0	—	—	—	2	1	0	0	0	0	—

関連科目	アドバンスト・インターンシップ	1後		2		○			1						兼5	集中
	科学技術英語	1前		2		○										
	情報工学特別講義Ⅰ	1・2前		2		○			1							
	情報工学特別講義Ⅱ	1・2前		2		○			1							
	小計(4科目)	—	0	8	0	—			1	2	0	0	0	兼5	—	
合計(48科目)		—	0	120	0	—			11	6	0	1	0	兼5	—	
学位又は称号		修士(工学)		学位又は学科の分野				工学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
<p>[履修方法]</p> <p>(1) 学生は、2年以上在学し、次に定める方法により、30単位以上を修得しなければならない。</p> <p>(2) 授業科目の中から1専修分野(特論4単位、演習4単位、実験4単位)を選定し、これを学生の専修科目とする。専修科目のほか、専修科目以外の授業科目(他専攻の授業科目・他研究科の授業科目を含む。)の中から18単位以上を選択履修しなければならない。</p> <p>(3) 専修科目を担当する教員を当該学生の指導教員とし、学生は、授業科目の選定、学位論文の作成その他研究一般について、その指導を受けるものとする。</p> <p>(4) 修士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。</p> <p>[修了要件]</p> <p>本大学院に2年以上在学し、修了に必要な単位数として、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、本大学院が行う修士論文の審査及び試験に合格しなければならない。</p>								1学年の学期区分				2学期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

教育課程等の概要														
(理工学研究科電気電子工学専攻博士前期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
電気エネルギー工学	電気エネルギー工学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	電気エネルギー工学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	エネルギー変換工学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	エネルギー変換工学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	大電流工学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	大電流工学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	電気エネルギー工学特別演習	1・2通		4			○		1					
	電気エネルギー工学特別実験	1・2通		4				○	1					
	小計（8科目）	—	0	20	0	—	—	—	2	1	0	0	0	0
制御システム工学	制御システム工学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	制御システム工学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	視覚制御工学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	視覚制御工学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	制御システム工学特別演習	1・2通		4			○		1	1				
	制御システム工学特別実験	1・2通		4				○	1	1				
	知能制御工学特論	1前		2		○				1				
	制御機器工学特論	1前		2		○				1				
小計（8科目）	—	0	20	0	—	—	—	1	3	0	0	0	0	
専修分野 電気電子材料工学	電気電子材料工学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	電気電子材料工学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	薄膜工学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	薄膜工学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	機能材料工学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	機能材料工学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	電気電子材料工学特別演習	1・2通		4			○		3					
	電気電子材料工学特別実験	1・2通		4				○	3					
小計（8科目）	—	0	20	0	—	—	—	3	0	0	0	0	0	
ビーム応用工学	ビーム応用工学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	ビーム応用工学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	電子光学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	電子光学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	応用光計測工学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	応用光計測工学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	光波電子工学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	光波電子工学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	ビーム応用計測工学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	ビーム応用計測工学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	ビーム応用工学特別演習	1・2通		4			○		4	1				
	ビーム応用工学特別実験	1・2通		4				○	4	1				
小計（12科目）	—	0	28	0	—	—	—	4	1	0	0	0	0	
情報通信工学	情報通信工学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1				
	情報通信工学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1				
	情報通信システム特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	情報通信システム特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	情報通信工学特別演習	1・2通		4			○		2	1				
	情報通信工学特別実験	1・2通		4				○	2	1				
	情報機器工学特論	2前		2		○							兼1	
小計（7科目）	—	0	18	0	—	—	—	2	1	0	0	0	兼1	

関連科目	アドバンスト・インターンシップ	1後		2		○			1						兼5	集中	
	科学技術英語	1前		2		○											
	電気電子工学特別講義Ⅰ	1・2前		2		○			1								
	電気電子工学特別講義Ⅱ	1・2前		2		○			1								
小計(4科目)		—	0	8	0	—			2	0	0	0	0	0	兼5	—	
合計(47科目)		—	0	114	0	—			12	6	0	0	0	0	兼6	—	
学位又は称号	修士(工学)		学位又は学科の分野				工学関係										
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
<p>[履修方法]</p> <p>(1) 学生は、2年以上在学し、次に定める方法により、30単位以上を修得しなければならない。</p> <p>(2) 授業科目の中から1専修分野(特論4単位、演習4単位、実験4単位)を選定し、これを学生の専修科目とする。専修科目のほか、専修科目以外の授業科目(他専攻の授業科目・他研究科の授業科目を含む。)の中から18単位以上を選択履修しなければならない。</p> <p>(3) 専修科目を担当する教員を当該学生の指導教員とし、学生は、授業科目の選定、学位論文の作成その他研究一般について、その指導を受けるものとする。</p> <p>(4) 修士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。</p> <p>[修了要件]</p> <p>本大学院に2年以上在学し、修了に必要な単位数として、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、本大学院が行う修士論文の審査及び試験に合格しなければならない。</p>								1学年の学期区分					2学期				
								1学期の授業期間					15週				
								1時限の授業時間					90分				

教 育 課 程 等 の 概 要

(理工学研究科材料機能工学専攻修士課程)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
ナノ材料	ナノ材料特論Ⅰ	1前		2		○			1							
	ナノ材料特論Ⅱ	1後		2		○			1							
	ナノ分析特論Ⅰ	1前		2		○				2						
	ナノ分析特論Ⅱ	1後		2		○				2						
	カーボン材料特論Ⅰ	1前		2		○			1							
	カーボン材料特論Ⅱ	1後		2		○			1							
	超微粒子特論Ⅰ	1前		2		○				1						
	超微粒子特論Ⅱ	1後		2		○				1						
	ナノ材料特別演習	1・2通		4			○		2	3						
	ナノ材料特別実験	1・2通		4				○	2	3						
	材料化学特論	1後		2		○										兼1
	小計 (11科目)	—		0	26	0	—	—	2	3	0	0	0			兼1
エレクトロニクス材料	エレクトロニクス材料特論Ⅰ	1前		2		○			2							
	エレクトロニクス材料特論Ⅱ	1後		2		○			2							
	エレクトロニクスデバイス特論Ⅰ	1前		2		○			1	1						
	エレクトロニクスデバイス特論Ⅱ	1後		2		○			1	1						
	半導体デバイス特論Ⅰ	1前		2		○			2							
	半導体デバイス特論Ⅱ	1後		2		○			2							
	半導体エレクトロニクス特論Ⅰ	1前		2		○			1							
	半導体エレクトロニクス特論Ⅱ	1後		2		○			1							
	エレクトロニクス材料特別演習	1・2通		4			○		6	1		1				
	エレクトロニクス材料特別実験	1・2通		4				○	6	1		1				
	光・量子エレクトロニクス材料特論	1後		2		○				1						
小計 (11科目)	—		0	26	0	—	—	6	2	0	1	0			0	—
専修分野 インテリジェント材料	インテリジェント材料特論Ⅰ	1前		2		○			1	1						
	インテリジェント材料特論Ⅱ	1後		2		○			1	1						
	結晶材料特論Ⅰ	1前		2		○			1							
	結晶材料特論Ⅱ	1後		2		○			1							
	超伝導材料特論Ⅰ	1前		2		○			2							
	超伝導材料特論Ⅱ	1後		2		○			2							
	ナノ電子材料特論Ⅰ	1前		2		○			1							
	ナノ電子材料特論Ⅱ	1後		2		○			1							
	インテリジェント材料特別演習	1・2通		4			○		5	1		1				
	インテリジェント材料特別実験	1・2通		4				○	5	1		1				
	低温物性特論	1前		2		○						1				
	高分子材料特論	1前		2		○										兼1
小計 (12科目)	—		0	28	0	—	—	5	2	0	1	0			兼1	—
コンポジット材料	コンポジット材料特論Ⅰ	1前		2		○				1						
	コンポジット材料特論Ⅱ	1後		2		○				1						
	表面改質材料特論Ⅰ	1前		2		○			1							兼1
	表面改質材料特論Ⅱ	1後		2		○			1							兼1
	生体材料特論Ⅰ	1前		2		○			1							
	生体材料特論Ⅱ	1後		2		○			1							
	金属材料特論Ⅰ	1前		2		○				1						
	金属材料特論Ⅱ	1後		2		○				1						
	コンポジット材料特別演習	1・2通		4			○		2	2						兼1
	コンポジット材料特別実験	1・2通		4				○	2	2						兼1
	プラスチック基複合材料特論	1後		2		○						1				
小計 (11科目)	—		0	26	0	—	—	2	2	0	1	0			兼4	—

関連科目	アドバンスト・インターンシップ	1後		2		○			1						集中	
	科学技術英語	1前		2		○			1						兼4	
	材料機能工学特別講義Ⅰ	1・2前		2		○			1							
	材料機能工学特別講義Ⅱ	1・2後		2		○			1							
小計(4科目)		—	0	8	0	—			4	0	0	0	0	0	兼4	—
合計(49科目)		—	0	114	0	—			15	8	0	3	0	0	兼10	—
学位又は称号		修士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
<p>[履修方法]</p> <p>(1) 学生は、2年以上在学し、次に定める方法により、30単位以上を修得しなければならない。</p> <p>(2) 授業科目の中から1専修分野(特論4単位、演習4単位、実験4単位)を選定し、これを学生の専修科目とする。専修科目のほか、専修科目以外の授業科目(他専攻の授業科目・他研究科の授業科目を含む。)の中から18単位以上を選択履修しなければならない。</p> <p>(3) 専修科目を担当する教員を当該学生の指導教員とし、学生は、授業科目の選定、学位論文の作成その他研究一般について、その指導を受けるものとする。</p> <p>(4) 修士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。</p> <p>[修了要件]</p> <p>本大学院に2年以上在学し、修了に必要な単位数として、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、本大学院が行う修士論文の審査及び試験に合格しなければならない。</p>									1学年の学期区分				2学期			
									1学期の授業期間				15週			
									1時限の授業時間				90分			

教育課程等の概要														
(理工学研究科機械システム工学専攻修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
材料システム工学	材料システム工学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	材料システム工学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	材料強度応用工学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	材料強度応用工学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	先進材料評価学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	先進材料評価学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	材料システム工学特別演習	1・2通		4			○		2	1				
	材料システム工学特別実験	1・2通		4				○	2	1				
	応力解析特論	1後		2		○			1					
	コンピュータアナリシス特論	1前		2		○					1			
	マイクロメカニクス特論	1後		2		○								兼1
小計(11科目)	—	0	26	0	—	—	—	3	1	1	0	0	兼1	—
生産システム工学	生産加工システム工学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	生産加工システム工学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	生産管理システム特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	生産管理システム特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	トライボロジー特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	トライボロジー特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	マイクロマシニング特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	マイクロマシニング特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	生産システム工学特別演習	1・2通		4			○		2	1				
	生産システム工学特別実験	1・2通		4				○	2	1				
	リユーブリカント特論	1後		2		○								兼1
小計(11科目)	—	0	26	0	—	—	—	3	1	0	0	0	兼1	—
専修分野 設計システム工学	設計機能工学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1				
	設計機能工学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1				
	生体工学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	生体工学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	設計システム工学特別演習	1・2通		4			○		1	2				
	設計システム工学特別実験	1・2通		4				○	1	2				
小計(6科目)	—	0	16	0	—	—	—	1	2	0	0	0	0	—
熱システム工学	熱工学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1				
	熱工学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1				
	高温気体力学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	高温気体力学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	反応性気体工学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	反応性気体工学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	熱システム工学特別演習	1・2通		4			○		1	2				
	熱システム工学特別実験	1・2通		4				○	1	2				
	伝熱工学特論	1前		2		○								兼1
	燃焼工学特論	1後		2		○								兼1
小計(10科目)	—	0	24	0	—	—	—	1	2	0	0	0	兼2	—
流体システム工学	流体工学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	流体工学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	混相流システム工学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	混相流システム工学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	計算流体システム特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	計算流体システム特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	流体システム工学特別演習	1・2通		4			○		1	2				
	流体システム工学特別実験	1・2通		4				○	1	2				
	流体システム工学特論	1後		2		○					1			
	数値流体工学特論	1後		2		○								兼1
小計(10科目)	—	0	24	0	—	—	—	1	2	0	1	0	兼1	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専修分野	制御システム工学特論Ⅰ	1前		2		○			1						集中 兼1 集中 兼1 集中 兼2 集中 兼4 兼4 兼11
	制御システム工学特論Ⅱ	1後		2		○			1						
	ナノマイクロシステム制御特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	ナノマイクロシステム制御特論Ⅱ	1後		2		○			1						
	知能システム制御工学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	知能システム制御工学特論Ⅱ	1後		2		○			1						
	知能ロボット制御特論Ⅰ	1前		2		○				1					
	知能ロボット制御特論Ⅱ	1後		2		○				1					
	制御システム工学特別演習	1・2通		4			○		2	1					
	制御システム工学特別実験	1・2通		4				○	2	1					
	メカトロニクス特論	1前		2		○				1					
	信号処理工学特論	1後		2		○									
	運動機能特論	1前		2		○									
	センシング工学特論	1後		2		○			1						
小計(14科目)	—	0	32	0	—	—	—	3	1	0	0	0	兼2	—	
関連科目	アドバンスト・インターンシップ	1後		2		○			1					集中	
	科学技術英語	1前		2		○			1					兼4	
	機械システム工学特別講義Ⅰ	1・2前		2		○				1					
	機械システム工学特別講義Ⅱ	1・2前		2		○				1					
小計(4科目)	—	0	8	0	—	—	—	2	2	0	0	0	兼4	—	
合計(66科目)			—	0	156	0	—	—	12	9	1	1	0	兼11	—
学位又は称号		修士(工学)		学位又は学科の分野				工学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<p>[履修方法]</p> <p>(1) 学生は、2年以上在学し、次に定める方法により、30単位以上を修得しなければならない。</p> <p>(2) 授業科目の中から1専修分野(特論4単位、演習4単位、実験4単位)を選定し、これを学生の専修科目とする。専修科目のほか、専修科目以外の授業科目(他専攻の授業科目・他研究科の授業科目を含む。)の中から18単位以上を選択履修しなければならない。</p> <p>(3) 専修科目を担当する教員を当該学生の指導教員とし、学生は、授業科目の選定、学位論文の作成その他研究一般について、その指導を受けるものとする。</p> <p>(4) 修士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。</p> <p>[修了要件]</p> <p>本大学院に2年以上在学し、修了に必要な単位数として、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、本大学院が行う修士論文の審査及び試験に合格しなければならない。</p>								1学年の学期区分			2学期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要															
(理工学研究科交通機械工学専攻修士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
エネルギー科学	エネルギー科学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	エネルギー科学特論Ⅱ	1後		2		○			1						
	推進工学特論Ⅰ	1前		2		○				1					
	推進工学特論Ⅱ	1後		2		○				1					
	エネルギー科学特別演習	1・2通		4			○		1	1					
	エネルギー科学特別実験	1・2通		4				○	1	1					
	内燃機関工学特論	1前		2		○				1					
小計（7科目）	—	0	18	0	—	—	—	1	2	0	0	0	0	—	
流体科学	流体科学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	流体科学特論Ⅱ	1後		2		○			1						
	流体システム特論Ⅰ	1前		2		○			1	1					
	流体システム特論Ⅱ	1後		2		○			1	1					
	流体科学特別演習	1・2通		4			○		2	1					
	流体科学特別実験	1・2通		4				○	2	1					
	計算力学特論	1後		2		○								兼1	
	流体機械特論	1前		2		○				1					
	計算科学特論	1後		2		○								兼1	
小計（9科目）	—	0	22	0	—	—	—	2	1	0	0	0	兼2	—	
専修分野 材料・構造科学	材料科学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1					
	材料科学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1					
	構造力学特論Ⅰ	1前		2		○				1					
	構造力学特論Ⅱ	1後		2		○				1					
	軽量構造学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1					
	軽量構造学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1					
	材料・構造科学特別演習	1・2通		4			○		2	3					
	材料・構造科学特別実験	1・2通		4				○	2	3					
小計（8科目）	—	0	20	0	—	—	—	2	3	0	0	0	0	—	
ヒューマンインタフェース	生産管理特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	生産管理特論Ⅱ	1後		2		○			1						
	マンマシンシステム学特論Ⅰ	1前		2		○			1	3					
	マンマシンシステム学特論Ⅱ	1後		2		○			1	3					
	知的制御特論Ⅰ	1前		2		○			1	1					
	知的制御特論Ⅱ	1後		2		○			1	1					
	ヒューマンインタフェース特別演習	1・2通		4			○		2	4					
	ヒューマンインタフェース特別実験	1・2通		4				○	2	4					
	システム工学特論	1前		2		○								兼1	
	応用機構学特論	1前		2		○								兼1 集中	
	操作システム特論	1前		2		○								兼1 集中	
小計（11科目）	—	0	26	0	—	—	—	3	4	0	0	0	兼3	—	
関連科目	アドバンスト・インターンシップ	1後		2		○			1					集中	
	科学技術英語	1前		2		○								兼5	
	交通機械工学特別講義Ⅰ	1・2前		2		○				1					
	交通機械工学特別講義Ⅱ	1・2前		2		○				1					
	小計（4科目）	—	0	8	0	—	—	—	1	1	0	0	0	兼5	—
合計（39科目）		—	0	94	0	—	—	—	9	10	0	0	0	兼10	—

学位又は称号	修士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>[履修方法]</p> <p>(1) 学生は、2年以上在学し、次に定める方法により、30単位以上を修得しなければならない。</p> <p>(2) 授業科目の中から1専修分野（特論4単位、演習4単位、実験4単位）を選定し、これを学生の専修科目とする。専修科目のほか、専修科目以外の授業科目（他専攻の授業科目・他研究科の授業科目を含む。）の中から18単位以上を選択履修しなければならない。</p> <p>(3) 専修科目を担当する教員を当該学生の指導教員とし、学生は、授業科目の選定、学位論文の作成その他研究一般について、その指導を受けるものとする。</p> <p>(4) 修士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。</p> <p>[修了要件]</p> <p>本大学院に2年以上在学し、修了に必要な単位数として、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、本大学院が行う修士論文の審査及び試験に合格しなければならない。</p>		1 学年の学期区分	2学期
		1 学期の授業期間	15週
		1 時限の授業時間	90分

教育課程等の概要														
(理工学研究科建設システム工学専攻修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
構造工学	構造解析学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	構造解析学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	構造設計学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1				
	構造設計学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1				
	構造工学特別演習	1・2通		4			○		2	1				
	構造工学特別実験	1・2通		4				○	2	1				
	耐震工学特論	2前		2		○								兼1
小計(7科目)	—	0	18	0	—	—	—	2	1	0	0	0	0	兼1
水工学	水文学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	水文学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	土砂水理学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	土砂水理学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	河川工学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	河川工学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	水工学特別演習	1・2通		4			○		1	2				
	水工学特別実験	1・2通		4				○	1	2				
小計(8科目)	—	0	20	0	—	—	—	1	2	0	0	0	0	—
地盤工学	地盤工学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	地盤工学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	地盤解析学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	地盤解析学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	岩盤工学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	岩盤工学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	地盤工学特別演習	1・2通		4			○		1	2				
	地盤工学特別実験	1・2通		4				○	1	2				
小計(8科目)	—	0	20	0	—	—	—	2	2	0	0	0	0	—
都市・交通計画学	都市システム工学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	都市システム工学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	交通システム工学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	交通システム工学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	都市・交通計画学特別演習	1・2通		4			○		1	1				
	都市・交通計画学特別実験	1・2通		4				○	1	1				
	交通管理・情報学特論	1前		2		○								兼1
小計(7科目)	—	0	18	0	—	—	—	1	1	0	0	0	0	兼1
建設材料学	建設材料学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	建設材料学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	建設複合材料学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	建設複合材料学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	舗装材料学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	舗装材料学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	建設材料力学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	建設材料力学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	建設材料学特別演習	1・2通		4			○		1	1				
	建設材料学特別実験	1・2通		4				○	1	1				
小計(10科目)	—	0	24	0	—	—	—	3	1	0	0	0	0	—
関連科目	アドバンスト・インターンシップ	1後		2		○			1					集中
	科学技術英語	1前		2		○			1	2				兼2
	建設システム工学特別講義Ⅰ	1・2前		2		○			1					
	建設システム工学特別講義Ⅱ	1・2前		2		○			1					
	小計(4科目)	—	0	8	0	—	—	—	3	2	0	0	0	0
合計(44科目)	—	0	108	0	—	—	—	9	7	0	0	0	0	兼4

学位又は称号	修士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>[履修方法]</p> <p>(1) 学生は、2年以上在学し、次に定める方法により、30単位以上を修得しなければならない。</p> <p>(2) 授業科目の中から1専修分野（特論4単位、演習4単位、実験4単位）を選定し、これを学生の専修科目とする。専修科目のほか、専修科目以外の授業科目（他専攻の授業科目・他研究科の授業科目を含む。）の中から18単位以上を選択履修しなければならない。</p> <p>(3) 専修科目を担当する教員を当該学生の指導教員とし、学生は、授業科目の選定、学位論文の作成その他研究一般について、その指導を受けるものとする。</p> <p>(4) 修士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。</p> <p>[修了要件]</p> <p>本大学院に2年以上在学し、修了に必要な単位数として、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、本大学院が行う修士論文の審査及び試験に合格しなければならない。</p>		1学年の学期区分	2学期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要															
(理工学研究科環境創造学専攻修士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人間行動環境学	人間行動計画学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	人間行動計画学特論Ⅱ	1後		2		○			1						
	居住環境設計学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	居住環境設計学特論Ⅱ	1後		2		○			1						
	人間行動環境学特別演習	1・2通		4			○		2						
	人間行動環境学特別実験	1・2通		4				○	2						
	循環型社会創造学特論	2前		2		○			1						
	循環型居住環境設計特論	1後		2		○								兼1	
	人間環境設計特論	1後		2		○				1					
	小計(9科目)	—	0	22	0	—	—	—	2	1	0	0	0	兼1	—
専修分野 大気水環境学	大気組成変動学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1					
	大気組成変動学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1					
	水環境工学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1					
	水環境工学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1					
	大気水環境学特別演習	1・2通		4			○		2	2					
	大気水環境学特別実験	1・2通		4				○	2	2					
	水質処理学特論	1前		2		○								兼1	
	水圏生物学特論	1前		2		○				1					
	小計(8科目)	—	0	20	0	—	—	—	2	2	0	0	0	兼1	—
地圏環境学	地圏環境学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1					
	地圏環境学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1					
	環境変遷学特論Ⅰ	1前		2		○				1					
	環境変遷学特論Ⅱ	1後		2		○				1					
	地圏環境学特別演習	1・2通		4			○		1	2					
	地圏環境学特別実験	1・2通		4				○	1	2					
	小計(6科目)	—	0	16	0	—	—	—	1	2	0	0	0	0	—
社会環境情報学	国土環境情報学特論Ⅰ	1前		2		○				1					
	国土環境情報学特論Ⅱ	1後		2		○				1					
	社会資本施設管理学特論Ⅰ	1前		2		○			2						
	社会資本施設管理学特論Ⅱ	1後		2		○			2						
	社会環境情報学特別演習	1・2通		4			○		2	1					
	社会環境情報学特別実験	1・2通		4				○	2	1					
	小計(6科目)	—	0	16	0	—	—	—	2	1	0	0	0	0	—
関連科目	実践インターンシップ	1・2後		4		○			1					集中	
	アドバンスト・インターンシップ	1後		2		○			1					集中	
	科学技術英語	1前		2		○								兼5	
	環境創造学特別講義Ⅰ	1・2前		2		○			1						
	環境創造学特別講義Ⅱ	1・2前		2		○			1						
	小計(5科目)	—	0	12	0	—	—	—	2	0	0	0	0	兼5	—
合計(34科目)		—	0	86	0	—	—	—	7	6	0	0	0	兼7	—

学位又は称号	修士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>[履修方法]</p> <p>(1) 学生は、2年以上在学し、次に定める方法により、30単位以上を修得しなければならない。</p> <p>(2) 授業科目の中から1専修分野（特論4単位、演習4単位、実験4単位）を選定し、これを学生の専修科目とする。専修科目のほか、専修科目以外の授業科目（他専攻の授業科目・他研究科の授業科目を含む。）の中から18単位以上を選択履修しなければならない。</p> <p>(3) 専修科目を担当する教員を当該学生の指導教員とし、学生は、授業科目の選定、学位論文の作成その他研究一般について、その指導を受けるものとする。</p> <p>(4) 修士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。</p> <p>[修了要件]</p> <p>本大学院に2年以上在学し、修了に必要な単位数として、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、本大学院が行う修士論文の審査及び試験に合格しなければならない。</p>		1 学年の学期区分	2学期
		1 学期の授業期間	15週
		1 時限の授業時間	90分

教育課程等の概要														
(理工学研究科建築学専攻修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
建築スペースデザイン	建築・地域デザイン特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	建築・地域デザイン特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	建築技術史特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	建築技術史特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	建築計画特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	建築計画特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	建築スペースデザイン特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	建築スペースデザイン特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	建築歴史意匠特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	建築歴史意匠特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	建築設計特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	建築設計特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	生活空間計画特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	生活空間計画特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	建築スペースデザイン総合設計演習Ⅰ	1通		4			○		3	4				
	建築スペースデザイン総合設計演習Ⅱ	2通		4				○	3	4				
	建築スペースデザイン特論	1前		2		○				1				
	建築・都市空間特論	1後		2		○								兼1
	建築設計実務特論	2前		2		○								兼1
小計（19科目）	—		0	42	0		—	3	4	0	0	0	兼2	—
専修分野 建築環境デザイン	建築環境デザイン特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	建築環境デザイン特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	建築環境計画特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	建築環境計画特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	建築環境工学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	建築環境工学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	建築環境デザイン特別演習	1・2通		4			○			2				
	建築環境デザイン特別実験	1・2通		4				○		2				
	建築設備設計特論	1後		2		○								兼1
小計（9科目）	—		0	22	0		—	1	2	0	0	0	兼1	—
建築材料・構造デザイン	建築構造デザイン特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	建築構造デザイン特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	建築材料・生産特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	建築材料・生産特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	コンクリート工学特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	コンクリート工学特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	建築材料・構造デザイン特別演習	1・2通		4			○		1	1				
	建築材料・構造デザイン特別実験	1・2通		4				○	1	1				
小計（8科目）	—		0	20	0		—	2	1	0	0	0	0	—
建築構造工学	建築構造工学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1				
	建築構造工学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1				
	建築構造解析特論Ⅰ	1前		2		○			1					
	建築構造解析特論Ⅱ	1後		2		○			1					
	建築応用力学特論Ⅰ	1前		2		○				1				
	建築応用力学特論Ⅱ	1後		2		○				1				
	建築構造工学特別演習	1・2通		4			○		2	2				
	建築構造工学特別実験	1・2通		4				○	2	2				
	鉄骨構造学特論	1前		2		○								兼1
	小計（9科目）	—		0	22	0		—	2	2	0	0	0	兼1

関連科目	実践インターンシップA-1	1前		2		○			1									
	実践インターンシップA-2	1後		2		○			1									
	実践インターンシップA-3	2前		2		○			1									
	実践インターンシップA-4	2後		2		○			1									
	実践インターンシップB-1	1通		3		○			1									
	実践インターンシップB-2	2通		3		○			1									
	実践インターンシップC-1	1通		4		○			1									
	実践インターンシップC-2	2通		4		○			1									
	アドバンスト・インターンシップ	1後		2		○			1									
	科学技術英語	1前		2		○											兼5	集中
	建築学特別講義Ⅰ	1・2前		2		○				1								
	建築学特別講義Ⅱ	1・2前		2		○				1								
	小計(12科目)	—		0	30	0	—			1	1	0	0	0	0	0	兼5	—
合計(57科目)		—	0	136	0	—			8	9	0	0	0	0	0	兼9	—	
学位又は称号	修士(工学)		学位又は学科の分野				工学関係											
卒業要件及び履修方法							授業期間等											
<p>[履修方法]</p> <p>(1) 学生は、2年以上在学し、次に定める方法により、30単位以上を修得しなければならない。</p> <p>(2) 授業科目の中から1専修分野(特論4単位、演習8単位又は特論4単位、演習4単位、実験4単位)を選定し、これを学生の専修科目とする。専修科目のほか、専修科目以外の授業科目(他専攻の授業科目・他研究科の授業科目を含む。)の中から18単位以上を選択履修しなければならない。ただし、実践インターンシップについては、4単位以内に限って、修了単位として認める。</p> <p>(3) 専修科目を担当する教員を当該学生の指導教員とし、学生は、授業科目の選定、学位論文の作成その他研究一般について、その指導を受けるものとする。</p> <p>(4) 修士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。</p> <p>[修了要件]</p> <p>本大学院に2年以上在学し、修了に必要な単位数として、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、本大学院が行う修士論文の審査及び試験に合格しなければならない。</p>							1学年の学期区分				2学期							
							1学期の授業期間				15週							
							1時限の授業時間				90分							

授 業 科 目 の 概 要			
(理工学研究科メカトロニクス工学専攻修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専修分野	応用電磁気学特論	メカトロニクスでは機構・電気・情報の複合系を扱うため、メカトロニクスを学ぶ上で電気電子工学は一つの重要な柱である。電磁気学は電気電子回路、動力機器、情報通信などで利用されている現象を理解するために不可欠である。本講義では、マクスウェル方程式に基づく電磁気的現象の記述を学び、理解する。また、電気部品、電気機器、通信等における電磁気的エネルギーの発生・貯蔵・消費・伝播の考察などより、具体的な部品・製品の動作について電磁気的に理解を深める。	
	電子デバイス学特論	メカトロニクスでは機構・電気・情報の複合系を扱うため、メカトロニクスを学ぶ上で電気電子工学は一つの重要な柱である。電子デバイスは家電製品から電気エネルギーの供給・制御、計測機器、情報通信機器など様々な場面において多様なものが用いられている。本講義では、基本的な半導体デバイス、光デバイス、超伝導デバイス、映像関係デバイス等について、その構造および動作原理を理解する。また、それらが具体的にどのように用いられるかについて学ぶ。	
	計測システム学特論	航空機、自動車を所定の目標地点へナビゲーション/安定化させる制御において、自機/自車の状態量の計測センサとしてのGPSシステムの概要、測位原理についての知識を習得する。さらに、ビークルの運動方程式についての実用的知識を習得する。慣性航法に必要な慣性センサ、IMU、ジャイロ等を事例として、イナーシャルナビゲーションの概要および測位原理についての知識を習得する。さらにセンサ観測雑音を除去する原理についての実用的知識を習得する。	
	制御システム学特論	航空機、自動車を所定の目標地点へナビゲーション/安定化させるための制御システムを構築するための航法制御、安定化制御についての知識を習得する。その後、安定化制御については静安定、動安定の概念について理解した後、安定化増大システムや操縦性増大システムの制御事例として、SAS、ダンパー、航空機のFBW（フライバイワイヤ）、自動車のSBW（ステアバイワイヤ）の制御則の原理・理論についての知識を習得する。	
	システムデバイス学特別演習・実験ⅠA	本授業は、電子デバイスの作製・評価を行うにあたり、実験と並んでよく用いられる、コンピュータによるデバイス特性の数値計算について演習・実験を行う。特性計算用のソフトウェアあるいはC言語によるプログラミングによるシミュレーション、特性解析などを行い、実際の特性との比較から、数値計算の有効性の確認や問題点の抽出などを行い、数値計算の手法を身につける。	演習 30時間 実験 30時間
	システムデバイス学特別演習・実験ⅠB	本授業は、電子デバイスの作製・評価を行うにあたり必要なデバイス特性測定技術について演習・実験を行う。対象に応じた測定法の選択と測定原理、測定装置を理解した後、実際のデバイスの測定を通して測定技術を身につける。必要に応じてデバイスや測定回路の作製も行う。また、微小信号測定時の雑音対策等の関連技術も習得する。	演習 30時間 実験 30時間
	システムデバイス学特別演習・実験ⅡA	本授業は、物体の運動や装置の状態を目標の位置・値まで誘導する際に必要となる計測・制御システムを具体的に実現するための技術を取り扱う。ここでは、信号取得方法、雑音除去処理による微弱信号抽出方法、信号処理方法などについて実験を通して身につける。	演習 30時間 実験 30時間
	システムデバイス学特別演習・実験ⅡB	本授業は、物体の運動や装置の状態を目標の位置・値まで誘導する際に必要となる計測・制御システムを具体的に実現するための技術を取り扱う。ここでは、制御システムの具体例を取り上げ、測位システムと併せて、実装方法も含めて実験を通して身につける。	演習 30時間 実験 30時間
	先端信号処理学特論	信号の最適濾波やシステムの状態推定の知識を理解すると共に、最適制御などの現代制御理論との関連などについて、制御工学と双対な意味で、信号処理工学の重要性を位置づける。(1)信号処理を考える上で、伝達関数による周波数応答法と状態方程式による時間応答法を対比することによって、信号処理の基礎を学ぶ。(2)カルマンフィルタ問題の定式化として、状態変数の真値と推定値の誤差の二乗平均を最小化する問題を習得する。(3)カルマンフィルタの応用事例として、雑音で汚れた位置情報から、位置、速度を推定するカルマンフィルタの基礎的な応用について習得する。	
	センシングシステム学	センシングシステム特論	自動車やロボットにおいて、「センサ+コントローラ+アクチュエータ」が重要な制御システムとなっている。これは例えば「人間が目のみで、脳が判断し、手で掴む行動をする」ことに似ている。本講義ではこのセンサに係わるセンシングシステムにおいて、各種の代表的なセンサを例に取り、センサ原理とその構造、センサ信号を電気信号に変換・検出するセンシング回路技術と実装技術、そしてセンサ信号をコントローラへ送る通信システムについての概要を学び、センシングシステムとコントローラ、アクチュエータの関係を知る。
知能センサ学特論		センサはその検出対象、検出目的、設置条件により、検出原理、センサ材料、センサ構造を選定することが大切である。センサ全般に関しての前記の知識が原理的に適合したセンサを選択し、アプリケーションに適用させ、優れたシステムを構築するために必要となる。本講義では自動車用、ロボット用センサを例に取り、各種センサの原理、構造を学び、アプリケーションに対してセンサがどのように設計され、製作され、対象に適切に設置されることにより、本来の能力を発揮できるようにすることができることを学ぶ。	
ロボットシステムデザイン学特論		ロボットシステムは、ハードウェア、ソフトウェアが複雑に組み合わさったシステムである。そのため、個々のハードウェアに注目することはもちろんのこと、システムを俯瞰しながら開発を進めていく必要がある。本講義では、代表的なロボットシステムを対象として、システム全体のデザインおよび、実装のための方法論を身につけることを目指す。このために、ロボット用ミドルウェアの概要、ミドルウェアを用いたシステムの実装方法の概要、さらには具体的なシステムへの適用方法について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(理工学研究科メカトロニクス工学専攻修士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
セン シ ン グ シ ス テ ム 学	知能ロボット学特論	システム全体を俯瞰しながら、システムに要求される機能を明確化して開発していくことがロボットシステムにおいて重要である。ロボットシステムデザイン学特論において学んだシンプルな事例を発展させ、本講義では、ロボットアームと移動台車を組み合わせたシステムを対象として、住宅内で活動することを対象としたロボットシステムにおいて、複数の想定アプリケーションを取り上げながら、システムのモデル化および具体的手法について学ぶ。	
	センシングシステム特別演習・実験ⅠA	メカトロニクスシステムにおいて、重要なコンポーネントである、センサ、アクチュエータ、コントローラおよびこれらを統合したシステム構築についての基本設計・評価についての演習・実験を行う。特に用いるコンポーネントの仕様検討、基礎動作検証を中心に実施する。これらの課題を通じて、コンポーネント設計・製作に必要な知識を身につける。	演習 30時間 実験 30時間
	センシングシステム特別演習・実験ⅠB	メカトロニクスシステムにおいて重要なコンポーネントである、センサ、アクチュエータ、コントローラおよびこれらを統合したシステム構築に向け、センシングシステム特別演習・実験ⅠAにおいて、評価した結果を踏まえ、対象システム実現に向けた仕様の具体化を進める。さらに、統合化するためのシステムデザインについての検討を進め、開発環境についても具体化を進めることで、システム開発を立ち上げるための基礎知識について学ぶ。	演習 30時間 実験 30時間
	センシングシステム特別演習・実験ⅡA	メカトロニクスシステムを対象とした仕様検討、個別コンポーネントの評価を通じて得られた知識、および構築した開発環境を用いて、システム統合化を進める。あわせて、対象とするシステムの発展に向け、関連する技術の調査を進めることで、対象とするシステムの世の中の位置づけ、および開発システムの独自性について理解を深める。また、これまでの開発成果をまとめ、成果発表を行うことで、研究開発成果のまとめ方について学ぶ。	演習 30時間 実験 30時間
	センシングシステム特別演習・実験ⅡB	構築したシステムを対象とし、満たすべき仕様にあっているかどうかについて、実験を通じて評価を進める。実験の実施にあたり、実験方法、評価方法についての計画、妥当性について、十分に検討を行い、実施する。こうしたプロセスを通じて、開発システムの評価方法を身につける。また、開発したシステムの周辺研究の調査、自身の成果の位置づけを明らかにしながら、開発したシステムに関する成果をまとめる技術を身につける。	演習 30時間 実験 30時間
	情報メカトロニクス学特論	現状のメカトロシステムは、複雑化・大規模化が進んでおり、システム全体を俯瞰しながら具体化を行っていくプロセス(分析・設計作業)が必要不可欠である。本講義では、メカトロシステムを対象に、モデリング言語SysMLを用いた分析、設計作業を行い、システム開発時に必要なモデル化手法について学ぶ。また、現実のプロジェクトに近い形式で分析・設計作業を進めることで、システム分析、設計スキルだけではなく、チーム内での協業作業、顧客へのヒアリング能力の向上など、現実のプロジェクトを遂行するために必要な能力を習得する。	
専 修 分 野	知能システム制御工学特論	ロボットシステムは、要素技術というよりも、多数の技術を駆使する知能システムの代表である。知能システムの制御を実現するための基礎となる制御理論を学ぶだけでなく、コンピュータによる知能制御システム関連などについて体系的に学ぶ。①ロボットのメカニズムと駆動機構および運動学、②電気回路基礎およびセンサーシステム、③ロボット制御用CPUおよびプログラミング基礎・手法、④ロボットセンサー信号処理およびモータ制御、⑤関節空間および直角座標空間でのロボット軌道制御などの知識を身につける。	
	制御工学特論	ロボットあるいは機械の知能化を実現するための基礎となる制御理論を学ぶだけでなく、システム解析・設計の知識を理解すると共に、コンピュータ制御システム関連などについて体系的に学ぶ。①線形システムの基本概念およびシステムの内部安定と外部安定、②システムの可制御性および可観測性、③最適制御問題およびロバスタ制御問題、④フィードバック制御システム設計、⑤サーボシステム設計及び制御理論などの知識を身につける。	
	機能システム構築学特別演習・実験ⅠA	本授業は制御技術でよく利用しているC、Matlabの結果適用について演習・実験を行う。C言語によりマイコン組み込み制御システムを設計・試作する。ロボット制御に必要なインターフェースの操作、通信手段、センサー信号処理などについてを設計・試作する、①組み込みシステムの開発プログラミング手法、②マイコン組み込みシステム構成、③マイコン組み込みシステム設計・製作などの知識を身につける。	演習 30時間 実験 30時間
	機能システム構築学特別演習・実験ⅠB	本授業は制御技術でよく利用しているC、Matlabの結果適用について演習・実験を行う。Matlabの基本機能を理解したうえでロボットシステム設計方法を把握し、制御システムの基礎理論の計算を施行し、Matlab/Simulinkの設計・計算結果などによりロボットシステムの性能検証手法を学ぶ。①Matlabにより制御システムモデル構築、②Matlabによりモデル変換、③Matlabにより制御システムの時間領域での解析、④Matlab/Simulinkにより組み込みシステム設計・製作などの知識を身につける。	演習 30時間 実験 30時間
	機能システム構築学特別演習・実験ⅡA	本授業は制御技術でよく利用している離散時間システムについて演習・実験を行い、コンピュータ制御システムの中心となるコントローラの基本構成、デジタル制御システムの解析手法を学ぶ。ロボットを構成するシステムについてのデジタルモデル化、解析、性能検証手法を学ぶ。①連続時間信号と離散時間信号、②システムの離散時間モデル、③Z変換性質および応用、④離散時間システムの状態空間表現、⑤離散時間システムの時間・周波数応答理論などの知識を身につける。	演習 30時間 実験 30時間
	機能システム構築学特別演習・実験ⅡB	本授業は制御技術でよく利用している離散時間システムについて演習・実験を行い、デジタル制御システムの解析手法を学ぶ。ロボットを制御するため実機実験によるデジタル制御システムを設計する。ロボットを構成するシステムについてのデジタルモデル化、解析、性能検証手法を学ぶ。①デジタル制御システムの解析、②デジタル制御システムのモデル特性、③デジタル制御システムの設計、④実機実験によりデジタル制御システム設計のなどの知識を身につける。	演習 30時間 実験 30時間

授 業 科 目 の 概 要				
(理工学研究科メカトロニクス工学専攻修士課程)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
機能システム構築学	移動システム学特論	移動する機械は、多くの未知環境に遭遇するため、知的行動を要求される。したがって、移動に必要とされる要素技術を理解することは重要であるが、それらを統合する技術が必須となる。本授業ではこの統合に視点をおき、分散型システム統合法についての代表例である階層化、機能統合等について実用ロボットも視野にいれた統合法について学習する。		
	強度解析モデリング特論	強度解析は、それ自身が深さと広がりを持つ。本授業では、強度解析の基礎を実用の世界で多用されている有限要素法に着目し、その利便性を活用し、複雑な強度解析式を用いずに強度評価を行うことができるようになることを目指す。そのためには、解析対象のモデル化の知見が必要であるため、簡素かつ、利便性の高いモデリング能力を学習する。		
	機能システム学特論	機能を有するシステムの機構の設計、制御を行うに当たり、脚やマニピュレータの運動学は不可欠である。そこで、本講義では、ロボットマニピュレータを対象とした、順運動学および逆運動学の解析手法について学ぶ。また、ヒューマノイドロボットを対象に、安定歩行のためのZMPの考え方、さらには歩行実現のための動力学解析について学ぶ。		
専修分野	マルチスケールメカトロニクス	ナノ・マイクロシステム制御特論	本講義では、制御工学の基礎をベースとしたナノマイクロシステムの制御方法について学ぶ。高度なシステムの制御方法を学び、理解して、社会への応用を考える。①マイクロナノ工学の基礎、マイクロナノファブリケーション、②マイクロナノセンサー、マイクロナノアクチュエータ、③システムの安定性、状態構造、最適化、④状態推定、適応制御、制御のインテリジェント化などの知識を身につける。	
		ナノ・マイクロ知能システム特論	本講義では、制御工学の基礎をベースとして、更にインテリジェントなシステムの制御の方法について理解する。高度なシステムの制御方法を学び、理解して、社会への応用を考える。①ニューラルネットワーク、②ファジィシステム、③エボリュショナル・コンピューテーション、④ニューロ・ファジィ・GA・AI、⑤適応・学習、⑥自己組織化システムなどの知識を身につける。	
		マイクロロボット学特論	課題となるロボット・メカトロニクスシステムの知的制御の必要性を理解できる。1. アクチュエータ、センサを融合した制御が理解できる。2. MEMS加工技術について基礎が理解できる。3. 知能制御について基礎が理解できる。ロボット・メカトロニクス要素である、センサ、アクチュエータ、演算装置の作製方法、機構を理解することができる。また、それらを制御理論と組み合わせ、実際の制御システムの構築へ応用することができる。	
		ナノ・マイクロ制御システム特論	本講義では、ナノ・マイクロテクノロジーを用いたバイオ応用について学ぶ。①ナノ・マイクロバイオシステムの基礎、②医療のナノ・マイクロバイオシステム、③バイオメテイクス、④福祉とナノ・マイクロバイオシステム、⑤細胞とナノ・マイクロバイオシステムなどの知識を身につける。	
		マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験 I A	本講義では、ナノスケールからマクロスケールまでのメカトロニクス機器の設計、加工、制御、システムアーキテクチャーの構築に関し、課題解決研究に必要とするモデル化、解析、性能検証手法について、実験装置を用いて学ぶ。ここでは、マイクロロボットアーキテクチャーの設計、構築手法、マイクロロボットアーキテクチャー機能について学習する。	演習 30時間 実験 30時間
		マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験 I B	本講義では、ナノスケールからマクロスケールまでのメカトロニクス機器の設計、加工、制御、システムアーキテクチャーの構築に関し、課題解決研究に必要とするモデル化、解析、性能検証手法について、実験装置を用いて学ぶ。ここでは、インテリジェント制御アーキテクチャ、アクチュエータとインテリジェント制御について学習する。	演習 30時間 実験 30時間
		マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験 II A	本講義では、ナノスケールからマクロスケールまでのメカトロニクス機器の設計、加工、制御、システムアーキテクチャーの構築に関し、課題解決研究に必要とするモデル化、解析、性能検証手法について、実験装置を用いて学ぶ。ここでは、ナノ・マイクロファブリケーション設計、製作、マイクロコンポーネントの設計、製作について学習する。	演習 30時間 実験 30時間
		マルチスケールメカトロニクス特別演習・実験 II B	本講義では、ナノスケールからマクロスケールまでのメカトロニクス機器の設計、加工、制御、システムアーキテクチャーの構築に関し、課題解決研究に必要とするモデル化、解析、性能検証手法について、実験装置を用いて学ぶ。ここでは、ナノ・マイクロファブリケーション製作、評価、マイクロコンポーネント製作、評価、およびこれらを用いたマクロシステムの制御システムの構築、評価について学習する。	演習 30時間 実験 30時間
		医療機械システム特論	本講義では、医療機器に関連した、メカトロニクス、マイクロシステム、バイオメカニクスの基礎的知識について学習する。人体にかかる力や構造の定式化、内視鏡、カテーテルなどの低侵襲医療、ダビンチなどの高精度手術ロボット、介護用ロボット、パワードスーツ、福祉用移動ロボットなどについて、これらシステムの基盤となる知識の習得とそれを用いた研究について知識を身につける。	
		バイオシステム特論	本講義では、細胞などのバイオシステムについて、それらバイオの基礎知識ならびに細胞計測・操作を行うシステムについて学習する。バイオシステムの基礎知識、昆虫や動物を模倣したバイオメテイクス、細胞を計測・操作するロボットテクノロジー、細胞単体での病理診断技術、細胞を組み上げて組織再生を実現する再生医療などについて知識を身につける。	
	アドバンスト・インターンシップ	生産活動・社会活動を行っている企業や公的機関等での就業体験を通じ、基礎的学問の重要性を認識するとともに、より高いレベルの創造性を身に付け、大学院修了後の進路を決定するに必要な自身の適性を見極めることができるようにする。これらに加え、現場での実体験から、安全や環境上の配慮、仕事への取り組み方を理解し、集団社会・組織社会に対する適応性の涵養も図る。		

授 業 科 目 の 概 要

(理工学研究科メカトロニクス工学専攻修士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
関連 科目	共通 科目	科学技術英語	国際的な共通言語である英語について、背景にある言語文化、単語の構成、文法、慣用句および学術論文に多用される表現を学び、各分野において実際に必要となる最低限の語学力を習得することを目的とする。具体的には、英語論文や英字マニュアルなどを読み取り理解する能力、英語による15分程度のプレゼンテーション能力、400語程度の英語抄録(アブストラクト)を書く力を習得する。同時に正しい日本語を使用した会話や文章を通して、豊かなコミュニケーション能力の涵養を図る。
	特別講義 I	実社会で活躍している研究者、技術者、起業家を招待して講義いただき、自らの視野を広げ興味を奮い立たせることを目的とする。講義は外部講師によるオムニバス形式にて実施する。外部講師の講義を受講することにより、実社会における最先端技術に触れることが可能になる。幅広い分野に対して見聞を広げ、今後の各自の研究に生かすことができるようにする。場合によっては、複数の専攻が共同して企画し、専攻横断的な教育の側面も持たせる講義である。	
	特別講義 II	特別講義 II では、特別講義 I とは異なる系統で活躍している研究者、技術者、起業家を招待して講義いただき、さらに自らの視野を広げ興味を奮い立たせることを目的とする。授業科目の概要に関しては、特別講義 I と同じものとする。	